

## 平成20年度 子どもたちの確かな学力育成のための検討委員会(第2回) 会議録

1 日 時 平成20年11月17日(月) 午後3時～午後4時30分

2 場 所 生駒市役所401・402会議室

3 出席者

(委員)

委員長 大原 裕	副委員長 大島 眞規	委員 西村 徹
委員 井上 宝	委員 辻野 トシ子	委員 山本 公一
委員 朽木 丈二	委員 佐々木 栄	委員 久保 とき代
委員 藤村 義邦		

(事務局)

教育総務部長 大津輪 幹夫	教育総務課長 峯島 妙
教育指導課長 西井 久之	教育総務課課長補佐 辻中 伸弘
教育指導課課長補佐 井上 廣	教育総務課 楠下 崇子

4 欠席委員

なし

5 議事内容(要旨)

(1) 第1回検討委員会の会議録の承認について

(委員長) ただ今から「第2回子どもたちの確かな学力育成のための検討委員会」を開催します。

まず、前回の会議録の承認を議題とします。会議録につきましては、承認

後、HPで公開となることから、表現や内容など十分にご確認いただき、変更箇所などありましたら、この場で発言いただければと思います。いかがでしょうか。

(異議なし)

(委員長) ご異議なしと認め、別紙のとおり会議録を承認することに決定しました。さて、これから本日の審議に入るわけですが、その前に30人学級について確認させていただきます。

前回、教育長等の挨拶の中で、今後の方針について触れられていたせいか、会議中には皆様から特に質問等が出ませんでした。

ここで、事務局から新たな情報提供等ありましたら、ご披露いただき、委員の皆様からも発言をお願いします。

(事務局) 施策を実施した以上総括は必要ですが、今年度からの事業ですので、年度途中の現段階では、結果検証もできません。

なお、現在の取組状況等については、事務局から各学校へアンケート調査を実施しておりますので、この場で紹介させていただきます。

(事務局) 小学1年生の担任を対象に11項目についてアンケート調査を行ないました。具体的には「子どもの様子が見えやすい」「個に応じた指導が可能」「習熟度別に対応が可能」「子どもとのふれあいの時間が増えた」といった項目に、多くの賛同があり、ほぼ100%に近い数字となっております。

一方で、「教材研究が可能、工夫した授業ができる」は55%、「保護者との細かな連携が可能」は65%程度です。

しかし、全体として概ね高い評価となっており、校長を対象としたアンケートでも高い評価を得るとともに、続けて実施してほしいという声が届いております。

(委員長) 現場から、補足説明等ございませんか。

(委員) 一昨年、市の施策としては実施されていなかったのですが、児童数の関係から偶然に、小学校1年生で30人以下の学級の担任を経験しました。その際、1年生ならではのきめ細かな対応が必要だと実感しましたので、「子どもの様子が見えやすい」「個に応じた指導が可能」「習熟度別に対応が可能」という点では同感です。教材研究については、おそらく多忙なゆえに手がつけられなかったのではないのでしょうか。

1学年75人であれば、30人学級と40人学級では、1クラス12～13人の差があり、2年生も最初のうちは1年生とあまり変わらないところがあるので、30人学級の積極的な推進をお願いしたいと思います。

(委員長) 事務局及び現場の先生からの説明を受けて、何か質問等ございますか。

(委員) 多忙と言われましたが、具体的に教えていただけますか。

(委員) 主に提出物等の添削と、保護者からの連絡帳への対応です。

小学校では常に子どもと一緒にいますので、空き時間はないのですが、連絡帳等は下校時間までに返さねばなりませんし、1年生、特に初めての子どものさんの保護者となると、様々な心配や悩みを抱えており、文通のように何度も行き来することがあります。子どもたちが下校してからは、校内の会議、事務処理、環境整備等があります。

クラスの人数にかかわらず、やるべき仕事は同じですが、人数が少く時間に余裕ができれば、丁寧に赤ペンを入れたり、子どもと一緒に遊ぶなど、空いた時間を子どもたちのために使えます。

(委員) 事務局にお聞きしますが、子どもに対して調査はされましたか。

(事務局) 行なったのですが、小学校1年生では質問の意味を理解することが難しく信憑性のあるデータとはいえません。また保護者対象の調査も行ないましたが、1年生ですから比較する対象がなく難しいようです。

しかし、年度末には、再度データを集めたいと考えております。

(委員長) ほかに質問等ございませんか。

ないようですので、30人学級の今後の方向性については、十分なデータ収集と実績把握を行なった上で検討するというところで、よろしいでしょうか。

(異議なし)

## (2) 学力育成に関する方策について

(委員長) 前回事務局から直近の課題として「情報科のこれから」及び「学習指導要領の改訂に伴う対応」を挙げられました。この件について、事務局から改めて説明をお願いします。

(事務局) まず情報科についてですが、生駒市では、平成16年3月に情報特区の認定を受け、年次的に小学校で情報科の授業を取り入れ、保護者からも高い評価を得ておりますが、平成20年7月から特区認定が取り消され、一般化されました。今後も続けることは可能ですが、平成23年度からの学習指導要領が改訂され、情報科に振替えていた総合学習の時間が減るため、現状と同様に実施することは困難です。これまで力を入れてきた「情報活用能力」及び「情報化社会に参画する態度」の育成には継続して取り組んでいきますが、情報科の授業数については、早期に導入した学校から計画的に減らしていき、学習指導要領改訂の平成23年度には全校で移行を完了したいと考えております。

なお、校内LANの整備は順次進めておりまして、平成21年度末には完了し、全校で各普通教室での情報端末機器の利用が可能となります。授業数が減っても、各授業で情報機器を活用する機会がありますし、職員研修についても続けていきたいと考えております。

(委員長) 只今、事務局から説明がありました情報科について、何かご質問、ご意見等ございますか。

(委員) その前に、確認させていただきたいのですが、生駒市でも財政が厳しいという話を耳にします。30人学級の実施など、いろいろな施策を展開されている中で、今後の新たな施策については、どのように考えて話せばいいのでしょうか。

(事務局) 本市では、地方公共団体の財政運営の弾力性を示す経常収支比率が98.7%となり、確かに財政は厳しくなっていますが、市では様々な見直しを行っており、節約すべきところは節約し、必要な施策は実施していこうと考えております。

市民の方に適正な受益者負担をお願いしたり、予算の面で難しいという結果になる可能性もありますが、検討委員会では忌憚のないご意見をお聞かせいただくようお願いいたします。

(委員) 情報機器の扱いについては、先生によって、得手不得手があると思うのですが、実際のところどうでしょうか。

また、学校によって授業単位数が異なっているようですが、保護者としては気がかりです。

(事務局) 情報科に関しては、確かに先生によって差はあると思いますが、市では情報教育専任の市費講師を雇用しており、授業は担任と市費講師の2人で行なっておりますので、苦手な先生方も次第に慣れていきます。また、研修の機会も複数設けております。

次に、授業単位数については、市教委へあらかじめ教育課程表を提出することになっており、全体として学校によって差が生じることはありませんが、時間割の組立て方によっては、下校時間や1日の時限数が異なることはあります。例えば、朝に15分程度、漢字の書き取り等を取り入れている学校では、1週間を带状にみれば一コマ分の時間となり、国語として認めることができます。

(委員) 情報教育にかかわらず、先生の力量には個人差があると思いますが、それぞれに必ず良いところがあるので、学校は先生同士が補い合えるように組合せを工夫して運営していただきたいと思います。そうすれば、学校全体として向上すると思います。

(委員) 現場の意見としては、情報科の専任講師を派遣していただき、情報機器が得意ではない先生の技術も向上してきたと思います。市主催の研修もあり、校内研修でもかなりの時間を割いてきたお陰で、学年としても学校全体としてもチームワークができ、子どもたちも力がついてきたと思います。

(委員) パソコンは手軽で便利ですし、校内LANの整備も進めていただいておりますが、図書館の利用が減っているようですので、今後、両方をどう利用するか、兼合いが課題になると思います。

(委員) パソコン等を通じて情報を得ても、それは人の考えです。1・2年生は操作に慣れるだけでいいと思いますが、5・6年生は、自分の考えをまとめる力も必要ではないでしょうか。

情報リテラシーとあって、情報機器を利用して得た膨大な情報の中から必要なものを抜き出し、活用する能力を身に着けることが大切ですが、現在、授業ではどのように取り組んでいますか。

(事務局) 生駒市では、情報化社会に参画する態度の育成に力を入れています。メールでやり取りする場合も、バーチャルな世界ではなく、向こうに相手がいることを意識させています。情報過多の世の中ですので、自分は理解できていないのに分かったような気になっていることのないように、取捨選択する力を養い、最後はプレゼン等を取り入れた学習を行なっています。

(委員) 以前に比べて機器自体は改良されてきたので、教師にとっても使いやすくなっています。また環境整備も整い、校内LANはいつでも情報を得られ、授業に大変有効で非常にありがたいと思います。

しかし、安易にインターネットに頼らず、手で書いたり物を作ったり、小学校の子どもの発達段階に応じた表現や発信の仕方を見直すべき時期かもしれない。

(委員長) いろいろご意見をいただきましたが、本市においては、自分に役立つ情報を取捨選択できるように情報活用能力を身に着けることを重要と考えながら、今後、情報科の授業は計画的に時間数を減らしていくということによろしいですか。

(異議なし)

(委員長) では次に、小学校の外国語教育について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 学習指導要領の改訂では、小学校に外国語活動が加えられますが、実質、英語活動となります。小学校の5・6年生で必須科目となり、10～12時間程度、発音重視で簡単な単語と会話を扱う内容となっております。

また生駒市では、伝え合う力というコンセプトをもっておりまして、コミュニケーション能力が重要だということで、英語も一つのツールと考え、独自に3・4年生でも英語の時間を取り入れたいと考えております。なお、1・2年生は、まず国語力の育成を重視するということで考えておりません。

小学校の先生方は、英語の免許を持っているわけではありませんので現場も、おそらく保護者も不安だと思いますが、ALTや地域人材を活用しながら、ネイティブの発音に触れる授業ができればと考えております。

(委員) この件については、県下の小学校長の研修でも話題になっておりますが、生駒は地域人材が豊富で、すでに我が校では、ボランティアを募り英語クラブを作って活動しています。事務局の地域人材の活用という案は、有効だと思います。

(委員) 現在中学に派遣されているALTは、中学校が優先とされながらも、要望があれば職員研修や幼稚園及び小学校へ出向いています。事務局では、今後

はどのように考えていますか。

(事務局) 予算を伴うことですので、現段階ではあくまでも方針としての話ですが、現在のALTとは別に小学校専属のALTの派遣を考えております。

(委員) 子どもが外国語を学ぶ場合は、生活と結びついていないと難しいと思います。5・6年生では教科になりますから成績評価につながりますし、英語でコミュニケーションがとれるようにと考えて進めると、勉強がたらくると思います。小学生は触れる程度で十分だと思います。

(委員長) この場は、方向性について検討していただく場ですし、時間も経っておりますので、続きは次回とさせていただきます。事務局から何か連絡等ございますか。

(事務局) 次回は、伝え合う力を育成するための副案ということで、「読む力」に焦点を当て、図書館活用についても検討をお願いしたいと考えております。

(委員長) では、次回は引き続き小学校の英語活動及び新たに図書館活用についてご審議いただくということで、よろしくお願いたします。

### (3) その他

(委員長) 続きまして、この場で次回の会議日程の調整をしたいと思いますが、事務局で考えている予定はございますか。

(事務局) 次回開催については、12月半ばまでにお願し、できましたら来年1月中旬までに4回目を、また来年2月の教育委員会定例会で、なんらかの答申をいただきたいと考えております。

#### (日程調整)

(委員長) それでは、次回は12月8日に開催します。

これで本日の日程を終了します。ありがとうございました。

以上